

## ゾーン30 ～私たちにできる安全対策～



「同じような不幸な事故が二度と起きないよう、十分な対策をしてほしい。罪のない命が失われるような事故が起こってしまったからでは、何もかも遅すぎる。」

大津市の交差点で信号待ちの保育園児らが巻き込まれた事故で、園児を亡くした母の悲しみの声を聴くと痛ましさで胸が詰まります。

さらに、スクールバスで登校する小学生への殺傷事件も起こり、令和に入り子どもたちが痛ましい交通事故や事件に巻き込まれる事案を受け、竜丘安全委員会は、子どもたちの安全対策に重点を置き取り組んでいます。

しかし、残念ながら竜丘地区は安全意識が低いと指摘されます。それは、竜丘小学校のスクールゾーン及び『ゾーン30』設定区域内の速度規制が遵守されていない実態があります。また、『ゾーン30』について地域の認識が薄いという声もあがっています。

そこで、私たちの暮らす竜丘地区住民が主体的に取り組んでいる交通安全対策『ゾーン30』について再度理解を深め、更に安全で安心して暮らせる地域づくりをしましょう。

### ★ ゾーン30って何？

竜丘小学校周辺を『ゾーン30』としています。『ゾーン30』とは、生活道路における歩行者等の安全な通行を確保することを目的として、区域(ゾーン)を定めて時速30キロの速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内を抜け道として通行する行為の抑制を図る生活道路対策です。

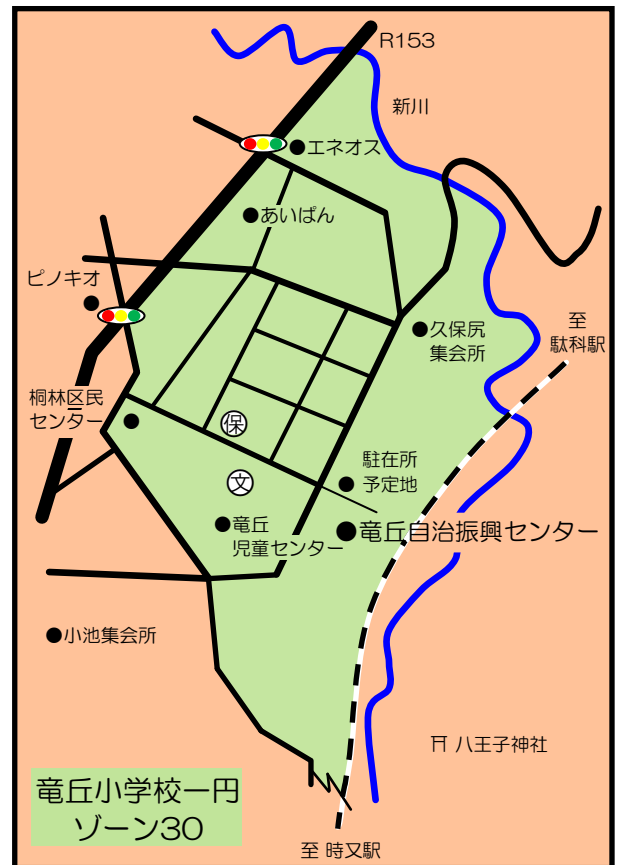
### ★ なぜ、30キロ規制なのか

自動車と歩行者が衝突した場合、自動車の速度が30キロを超えると、歩行者の致死率が急激に上昇します。このため、生活道路を走行する自動車の速度を30キロ以下に抑制することにしました。

### ★ 歩行者優先で罰則があります

『ゾーン30』の設定区域内は、児童の通学路です。区域内を車両で通行する際は、車両の速度を30キロ以下に抑え、歩行者を最優先とした運転を心掛けるようお願いいたします。速度超過の場合は、罰金が課せられます。県下に数台しかない移動式オービス(速度違反自動取締装置)を竜丘小学校の『ゾーン30』に設置する動きもあります。

私たち運転者が、常にできる交通安全対策『ゾーン30』です。いつまでも、安心安全な竜丘地区と胸を張って生活できるようにしていきましょう。(安全委員長 中田 博)



## 駐在所が移転します



「竜丘駐在所」は現在時又駅の踏切近くにありますが、今年秋ごろ竜丘小学校のすぐそばに移転してきます。子どもが被害者になる事件が多発する中、保育園や小学校に隣接して駐在所ができるというのは本当に心強いですね。昨年末から自治振興センターの隣で土地の造成工事が行われていますが、そこが新しい駐在所の建設予定地です。基本設計も終わっており、秋の開所を目指してこれから建物の工事が始まります。入口は消防団詰所と細い道路を挟んで向かい合う場所になります。



新しい駐在所から保育園・小学校へ向かう道は時間通行規制があり、周辺道路は「ゾーン30」です。お巡りさんにご指導をいただかないよう、皆さま安全第一でご通行ください。(桐林区長 下平 章)

## 連載シリーズ 第13回 ～ 紹介します ～ 「りんの会」

「りんの会」は駄科公民館育成グループとして平成25年に発足しました。平仮名で「りん」と表記するのはいろいろな「りん」を含んでいるからです。

「隣」…隣人と手を取り合って 「輪」…わきあいあいと輪をつくり  
「鈴」…鈴岡城址のある駄科で 「凜」…凜として生きる

このように「りんの会」は元気で明るく仲間と共に生きることを目指しています。



会員は現在33名で皆高齢者です。月1回駄科区民センターで「駄科りんの会ラプソディ」を歌って会が始まります。この歌は会員全員で詞を考えた「東京ラプソディ」の替え歌です。活動は体操や歌、地域の学習や健康の話、演芸鑑賞、頭の体操などです。特に歌の時間はカラオケやキーボードの伴奏で唱歌や童謡、歌謡曲などを唄うことで懐かしい思い出が鮮明によみがえる楽しい時間です。さらに最も楽しみにしているのが、スタッフが献立を考え、手づくりしてくれる昼食です。「今日のお昼は何かな…」みんなていただく食事のおいしいこと…。



また駄科文化祭では毎回ステージに立ってみんなで大きな声で歌の発表をしています。♪…楽し駄科 恋の駄科 夢のパラダイスよ 花の「りんの会」…♪  
今日も仲間と共に生きる (りんの会)

## 救える命のために ～赤十字奉仕団～



日頃より赤十字奉仕団の活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。奉仕団の活動の一つとして、地域での各種募金活動をさせていただいております。今年度も、活動資金へのご協力、赤い羽根募金、災害義援金への皆様方の温かい善意をありがとうございました。

また、救急班では、いざという時に迅速かつ適切な応急手当ができるように、救急法講習会で学んだ一次救命処置と応急手当の知識・技術の維持向上を目指して練習を重ねています。

9月に行われた長野県赤十字救急法大会では、竜丘から1チーム3名が出場し、練習の成果を発揮して見事金賞を受賞することができました。

今後も赤十字奉仕団では、救える命のためにできることを行って、活動を続けて参ります。



(赤十字奉仕団 竜丘分団長 平林 幸子)

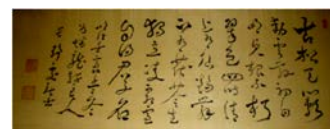
## 竜丘 四季折々の植物 <3> ～ 大東の老松 ～



ワーすごい！この松っていったいどのくらい年数が経っているの？と訪れた方々からよく聞かれます。それで私は父から「この松は、おおよそ5～600年は経っているんだよ」と聞いておりましたので、そのように申しております。また私の母が詠んだ短歌に「庭松の幹深く割れし亀甲型は百年前の写真と同じ」とありますが、米寿を過ぎた私も子供の頃から見ている姿と全く変わっておりません。ちなみに、わが家の屋号は「大東」といいますが、その他に軒号としては「蟠龍軒(ばんりゅうけん)」と呼ばれています。

明治中頃になると各地から文人墨客が天下の名勝天龍峡へ訪れるようになりましたが、その内の一人で漢詩や書画などに勝れた福田静処(名は世耕)が明治35年の冬に私の曾祖父(蟠龍軒主人)の所望によりこの古松を詠んだ五言八句の扁額があるので紹介します。

要約すると「この古松に風が吹くと笙の笛のような妙(たえ)なる音を発し、雲は初日の出に應えてゆっくりと棚引く。松の根は朽ちることなく、松葉は一年中翠色に輝いている。上空には長寿をことほぐかのように白鶴が舞い、根元には家運繁栄を祝うように茯苓(ぶくりょう)が生えている。このように幾星霜を凌いで独り毅然と立っているの自ずと君子の名を得ている」と私は解釈しております。



福田静処の扁額

世は令和の時代となりましたが、私はわが家のシンボルともいべきこの老松を末永く語り継いでいけるよう心している昨今です。終わりに今は亡き母の短歌をもう一首。

～こぞり立つ庭松のみどり見上げて思ふ 守り来し幾年難(かた)かりしことを～(時又 今村 東一郎)